

「チャレンジする中小企業 アシストする中小企業診断士」

診断かがわ

2020年 新年号 NO. 74号

(2020年1月10日発行)

【主要目次】

- ◆ 新年のごあいさつ (山下会長) 1
- ◆ 理論政策更新研修 (森理事) 2
- ◆ 研修講師養成講座 (山下会員) 3
- ◆ 診断士の日セミナー (高井会員) 4
- ◆ スキルアップ研修 (安岡会員) 5
- ◆ 新入会員自己紹介 (星会員) 7
- ◆ 新入会員自己紹介 (瀬良会員) 8
- ◆ 新入会員自己紹介 (石村会員) 9
- ◆ 新入会員自己紹介 (永山会員) 10



診断士の日セミナー
(2019年11月9日)

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-814-6456 FAX 087-840-0321

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org>

メールアドレス mail8@shindan-kagawa.org

発行人	会長	山下 益明
編集人	広報企画事業部	梅澤 秀樹
〃	〃	立川 敦史
〃	〃	溝渕 善彦
〃	〃	森 昭博



新年のごあいさつ

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会長 山下 益明

新年あけましておめでとうございます。平素は協会活動に多大なるご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2019年を振り返りますと、県内でも地域活性化における取組が活発化しているということを実感した1年でした。

たとえば第4回目となる「瀬戸内国際芸術祭」が開催されました。ニューヨーク・タイムズ紙電子版が瀬戸内を特集するなど欧米圏の注目度も高く、春・夏・秋の3会期で過去最多の約117万人が来場。県のブランド力や海外での知名度を押し上げるとともに、移住者増加や地域活性化など、その効果は香川の活力向上につながると評価されています。

また香川県の西に位置する三豊市の「父母ヶ浜(ちちぶがはま)」は、南米ボリビアの天空の鏡とも呼ばれる「ウユニ塩湖」のような写真が撮れると話題になっています。

このような地域活性化の成功事例を参考にしていただくため、当協会は2019年度の理論政策更新研修の講師として、「父母ヶ浜」大ブレイクの仕掛け人にご登壇いただきました。父母ヶ浜の清掃ボランティア「ちちぶの会」の皆さまと、三豊市観光交流局チーフマネージャーの石井 紫(ゆかり)氏です。

石井氏が「父母ヶ浜」について2017年から情報発信をスタートすると、「インスタ映えする浜」として知られるようになり、静かな浜は一変。2018年は、海外客4万人強を含め28万人の観光客が訪れました。現在、浜の魅力を楽しめる商業施設、宿泊施設、飲食店が次々とオープンしており、地域活性化の事例として全国的にも注目されています。

パラダイムシフトによる価値の創造…地域の自然をPRする「切り口」を工夫して情報発信していく手法、地域住民や民間企業を巻き込んでいくネットワークづくりのポイントなど、私たち診断士が地域活性化のご支援をする際のヒントが多くありました。

時代が急速に変わっていくなか、中小企業診断士の多種多様なスキルアップは、ご支援先だけでなく社会全体からも求められているといえます。社会貢献の意味も含め、診断士も地域活動への取り組みに、より力を入れていければと考えます。そのためにはまず、私たちの経済基盤を確固たるものにしていこうではありませんか。

以前よりお伝えしておりますが、経営コンサルタントの本質は、「周りから必要とされ、役に立ち、認められることで、世の中を良くする！」と認識しております。当協会は、「成長し続ける本物の経営コンサルタントを目指そう！」をスローガンに、「お客さまへのお役立ち度を高めることに焦点を絞るプロコンづくり」に真剣に取り組んでいます。

本物の経営コンサルタントとして必要な「人間力」「商品力」「営業力」を高める機会(研修・セミナー等)を数多くご提供することで、本年も皆さまのお役に立つとともに、当協会の存在意義を高めていきたいと存じます。

末筆になりましたが、皆さま方のますますのご健勝とさらなるご活躍を祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。



香川県協会「理論政策更新研修」報告

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
理事 森 昭博

日本のウユニ塩湖!三豊市仁尾町の「父母ヶ浜」をご存じですか？

インスタ映えする絶景スポットとして世界から注目されている「父母ヶ浜」。地元・香川県協会の2019年度理論政策更新研修は「地域資源活用」のテーマで、「父母ヶ浜」の深いお話を取り上げました。

2019年8月31日、サンポート高松61会議室で開催された理論政策更新研修、まず「新しい中小企業政策」について学びました。具体的には「中小企業の強靱化対策」「小規模事業者政策の今後の方向性」「2019年版中小企業白書」のポイントを教えていただきました。

続いて「父母ヶ浜」ブームの火付け役の三豊市観光交流局・石井紫さんの講演です。ブームになった要因の一つは、いち早く外国人観光客のニーズに気づいたことですが、裏には、それにつながる組織体制がありました。三豊市は地域の観光資源をPRする観光協会と国際理解等を行う国際交流協会を2017年に合併させ、観光交流局を組織していたのです。石井さんは、もともと国際交流協会に所属していましたが、合併により観光にも関わることになりました。そのため観光と外国人を結び付ける、その当時はあまり注目していなかったニーズに気づけたといえます。

アンケート結果によると三豊市は当時、地元の子どもの多くが大人になっても住みたいと思う町ではありませんでした。それを「無理だと思われていた観光で何とかしたい」それが石井さんの思いでした。多くの人がすごいと評価して町を訪れることで、地元の人たちが町に誇りが持てるようになったのです。

気づいたニーズを地元写真愛好家等も巻き込んだコンテスト開催やSNS、メディア等によって広め、瀬戸内の新観光名所誕生までの経緯をお話いただきました。結果として「じゃらん」の夕日絶景全国1位獲得、「ニューヨーク・タイムズ」の世界で行くべき52か所の7位に「瀬戸内の島々」がランクイン等、「父母ヶ浜」のブームは皆様ご存じの通りです。

石井さんの講演の後は、影の立役者として「父母ヶ浜」を20年以上にわたり清掃している「ちちぶの会」3名に登壇いただきました。漁師・建設会社会長・町役場元職員のお三方に、埋立計画への反対運動、浜を守る覚悟を示す清掃活動、故郷の浜への思い等、今日だけ、ここだけのお話を熱く語っていただきました。

もし「父母ヶ浜」が瀬戸内の他の浜と同じように埋め立てられていたら、もし「ちちぶの会」の皆さんが清掃活動を途中であきらめていたら、もし誰もインスタ映えするスポットだと気づかなかっただら、と考えると、多くの偶然が重なってブームになったように思えます。しかし、そこに共通するのは、地域への愛着やこだわりであり、その強さが要因だとすれば、ブームは必然ともいえます。地域も企業も成長発展するには、いかに所属する人たちが愛着やこだわりを持てるかにかかっており、そのためには先頭に立って、熱く、粘り強く駆け抜ける人の存在が必要ではないかと思いました。

「きれいな浜を守り続けてくれてありがとう」「われらが浜を広めてくれてありがとう」ともお互いに感謝し合っている姿が印象的でした。



父母ヶ浜の夕景



「研修講師に必須のプレゼンテーションカアップ」
を受講して

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 山下 晶子

最近、研修講師をさせていただく機会も増えてきたのですが、自己流できちんと勉強した記憶がありません。研修で伝えたい内容をどのように伝えるのか、悩んでいた時に当研修が開催されることを知り受講しました。

講師の三神結衣氏は、フリーアナウンサーとして活躍後、2002年に株式会社ネクストステージ・プロデュースを設立。現在、「人間力向上」を目的としたトレーニングプログラムの開発やコンサルティング、体感型の講演・研修を展開されており、依頼のほとんどが口コミ、リピート率は9割を超えるなど素晴らしい実績をお持ちです。

まずは、「プレゼンテーションはコミュニケーション」であり、相手と会話・対話になっているか？何を話したかではなく、どう伝わったかが重要であること。プレゼンテーションが上手な人は、「目的」と「相手」に合わせて話せる人ということ学びました。

また、「伝えたい言葉」と「言い方」と「表現・振る舞い」が一致しているとパワーのあるプレゼンテーションができること。デリバリースキルとして、姿勢や表情、アイコンタクトの取り方、間の取り方など細かい点まで指導いただきました。実際にグループワークで実践してみると、教えられたことに気を遣いながらプレゼンテーションすることは難しく、ぎこちないものになってしまいました(笑)。

先生の講義は楽しく、流石プレゼンテーションのプロといった内容でした。これまでプレゼンテーションの内容は検討しても、どのように伝えるかまでは、気を配ることができていなかったことに気づかされた研修でした。本日学んだことを意識して練習し、今後のプレゼンテーションに役立てて行きたいと思います。



案内リーフレット



「診断士の日セミナー」記念セミナーを受講して

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 高井 美帆

株式会社マインドシェアの代表取締役である今井祥雅氏の講演「いま、求められる商品・サービスとは ～マーケティング、ブランド構築の流れ～」を拝聴しました。

講演では、マーケットインの発想が欠かせない時代となった現在において、顧客からオンラインワンと認識されるためのマーケティング手法、およびブランド戦略について講義されました。

私自身はマーケティング畑ではないため、学び取りたいと思う反面、きちんと理解できるかという不安を持って臨みました。しかし、今井氏のお話には、説得力のある事例が挟み込まれており、顧客が求める価値を探し出し、そこへ自社の強みが届き、伝わり広がるコミュニケーションマーケティングの重要性について興味深く聞き入ることができました。

今井氏は株式会社リクルート勤務を経て、26歳で起業、株式会社マインドシェアを設立され、以後、新規事業開発・商品開発などの商業マーケティング事業を展開するとともに、そのノウハウを活かした地域活性支援事業を積極的に展開されています。さまざまな企業や自治体のマーケティング活動をサポートする中で、価値観が多様化する消費者の中で「誰」に対して「どんなことを」「どのように」発信するのかを重視してきた今井氏の講演を聴き、顧客と意識を共有できる感受性が大切であると考えさせられました。

また、講義のテーマ以外で強く印象に残ったことは、「自分が事業をやるのだ」という強い思いが経営者には一番大切であるという言葉です。私は昨年創業したばかりですが、診断士を志した根源的なきっかけとなる出来事を改めて思い返し、心の灯として頑張りたいと思わせていただきました。

最後に、個人的な話ですが、ご挨拶させていただいた際に、女性診断士であるからこそこのニーズについて話を交わすことができました。常日頃、自分の足りない面に目が向きがちなのですが、自分が届けられる価値を改めて見つめ、そこを磨き続ける努力を積み重ねていこうと気持ちを新たにしました。



熱く語る講師の今井祥雅氏



瀬戸内海を背景に集合写真



スキルアップ研修感想文

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 安岡 和孝

「スキルアップ研修」を受講したきっかけは、事務局八木さんからの強いおすすめがあり興味を持ったからです。今回の受講の目的は、創業してちょうど8ヶ月目ということもあり、今一度、自分の行動を振り返ることとしました。

今回の受講内容で特に印象的に残ったのは、「売上高(お客さまへのお役立ち度)」を上げること、成果をあげるための能力は人間力×営業力×商品力であり、人間力は人格×人間的魅力、人格は性格+考え方、でした。

特に人格の定義は、性格に癖がある自分にとっては、「考え方」を磨くことで人格を高められること、人格形成に力を入れようと思うことができるようになりました。

他の受講者とのエピソードとしては、何度も受講している方の話で、この講座受講を自分の成長のバロメーターに活用されているとか、セレンディピティを得られるよう参加しているという話に、「なるほど」と思われました。

先生方への印象は、次のとおりです。

山下先生の実体験から説明される講義内容は刺激的で、淡々と説明する中に、熱いものを感じることができました。また、人間性の説明がとても具体的で、人間性を高めるため今後自分が何をすればいいかわかりやすかったです。

岩倉先生からは経営コンサルタントの定義を教えてくださいましたがとても具体的でした。小島先生からはコンサルタントとしてのポジショニングを教えてください、とても明解でしたので、その場でポジショニングマップの作成ができました。山崎先生からは、30年間で学んできたこと実践されたことをコンテンツにされたとのことで、自分も長く事業を行い、コンテンツを作成できるようになりたいとの目標のきっかけを得ました。

受講して良かったことだらけです。中小企業診断士としての心構えはもちろんのこと、事例研究を参考に、事業者支援をどう進めているか、中小企業診断士でどうお客様に価値を伝えて、フィーをもらう方法を具体的に体験、実践に基づいて惜しみなく教えていただけました。

また、ポテンシャルの高いメンバーと情報交換できたことで、多くの刺激が得られて、また、終わってからすぐ行動しようと決意できました。

今回学んだ内容は、どの内容も、企業支援時に活用できる切り口で、社長を納得させ動かすことにとっても有益だと思いますので、集客、受注はもちろんのこと、支援現場でも活用していきます。

REGISTERD MANAGEMENT CONSURUTANT REPORT

この研修を受けての意気込みとして私は、ターゲットである人手不足で悩んでいる社員30人以下の社長に、今月から毎月、人手不足を解消することに役に立つセミナーを開催します。

2020年11月期には、30社に対して、単価30万円の経営計画策定を受注します。

ターゲットの「会社の価値」＝「将来ビジョン」×「野心的目標」をあぶり出し、人手不足を解消することで新たな成長の機会を掴みとり、地域社会にいい影響をもたらす存在になってもらって、地域経済、日本経済が豊かになることに貢献したい。という決意を新たにしました。



1日目の講師・山下会長と集合写真



2日目の講師は岩倉理事



小島理事と受講生の皆さん



山崎理事が3日目の講師



新入会員自己紹介

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 星 雄仁

はじめまして。星 雄仁と申します。2019年11月に香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました。よろしくお願いいたします。

生まれは東京です。その後、小学5年生までに広島、山口、大阪と移り住み、現在は奈良県に住んでいます。

今年1月から独立診断士として活動しています。

前職は小さなコンサルティング会社に2年弱勤務しておりました。その前は、再生資源物を取り扱う中小企業にて営業兼現場マネージャーとして12年間在籍し、さらにその前は釣り情報紙で取材編集記者を5年間しておりました。

ある時は編集者、ある時は営業マン、ある時はトラックドライバー、ある時はフォークリフトオペレーター、そしてまたあるときは中小企業診断士。ではなく、これからはずっと中小企業診断士として社会のお役に立ちたいと思っています。

四国とのご縁は、前々職で四国地区(高松、坂出、四国中央、松山が基本ルートでした)を担当したことが始まりです。11年間月1~2回のペースで四国を訪れ、都度5~8人程度の取引先の社長と定期的に面談をしていましたが、幾度となく社長の悩みやそこで働く人々の想いに触れることができました。そうした経験のなかで感じた「中小企業はもっと良くなれる」という思いが、私が中小企業診断士を志したきっかけです。

資格取得後は、香川県協会員の中村かおりさんに「よく四国に来ているのなら」と山下会長をご紹介いただいて香川県協会とのご縁もいただきました。

その後、スキルアップ研修、山下先生の益明塾にも参加し、私の目の前の景色は大きく広がり、2度の退職を経て独立にたどり着きました。

四国に関われたからこそ、中小企業診断士という一生をかけられる仕事に出会えたといっても過言ではなく、子どものころ各地を転々とした私にとって四国は故郷のように感じています。

香川県協会に入会したからには、四国の企業と四国の人々に少しでもお役に立つことを使命と考え研鑽に励みたいと思っていますので、これからよろしくご指導のほどお願いいたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 瀬良 昌宏

【自己紹介】

2019年12月に入会させていただきました、瀬良昌宏(せらまさひろ)と申します。

出身は岡山県湯原温泉です。瀬戸内海に面したところにある私立高校から、東京の大学に進みました。就職は電子部品関連のTDK株式会社で、生産技術畑を歩きました。各種新製品の立上げ、海外展開、工場改善を行いました。最後はハイブリッド自動車のDCDCコンバーターのライン設計、立上げ、客先監査対応を行いました。

2013年定年退職し、「作業作り工程作り人作りで工場作り経営作り」をモットーに独立コンサルをやっています。

【入会したきっかけ】

会社員時代の流れで営業をしていると、関東地方と新潟、山形、岩手、北海道へと広がっていきました。その中で昨年からはUターンを志向し、出身地に近い仕事をするべく活動を行っています。

Uターンの最初のステップは、成田空港と高松空港を結ぶJETSTARの活用です。ということで、高松で仕事をと入会させていただきました。

【協会活動で特に印象に残ったこと】

11月に開催されたスキルアップ研修に3日間参加させていただきました。

山下会長はじめ、岩倉理事、小島理事、山崎理事の熱い講習に触れ貴重な体験となりました。参加者の皆様とも朝昼夜と楽しく過ごさせていただきました。その中で刺激的なお話も沢山伺うことができました。

【今年の活動】

Wカップラグビー公式キャッチコピーの「4年に一度じゃない。一生に一度だ。- ONCE IN A LIFETIME -」に乗せられ、神戸で南アフリカ戦、静岡でオーストラリア戦、札幌でイングランド戦の観戦をしました。

次男坊が高校からラグビー部に入り、大学でも続け秩父宮ラグビー場での観戦に行くことができました。現在、トップにはほど遠いですが社会人ラグビーをやってくれています。

【今後の意気込み】

経営をより良くしたいと考えている経営者の補佐人として、長年の経験で培ってきたIEの問題解決手法を駆使し、想いに貢献したいと考えています。

経営者の想いを、現場で働いている方々あるいはリーダーをチームとしてまとめ、会社を変える自律した原動力になるよう進めていく所存です。

ご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 石村 飛鷹

2019年12月に入会させていただいた石村 飛鷹(いしむら ひよう)と申します。

千葉市に事務所を構え2019年4月に独立開業したばかりの駆け出し診断士です。現在、36歳で妻と2歳の長男がいます。また2月には次男が誕生予定です。

香川県協会との最初の接点は、2017年に診断協会本部・南関東ブロックのスキルアップ研修にて小島仁先生のセミナーを受講したことがきっかけです。当時、東京商工会議所の経営指導員をしていたのですが、公的支援だけでは真の経営改善ができない現実に悩んでいました。それまでは無料の公的専門家派遣しか知らず、「公的支援ありき」の発想でしたが、「民間コンサルタントこそが真の経営改善の立役者だ」と、それまでの既成概念を破ることができました。その後、山下会長の益明塾に入塾し、民間コンサルタントとしての心得を習得しました。香川県協会主催のスキルアップ研修にも2018年、2019年と2年連続で参加しました。

私が香川県協会への入会を決意したのは、高い志を持つ皆さまのような診断士と少しでも接点を増やしていきたいと思ったからです。これまでのスキルアップ研修の参加を通じ、香川県協会の皆さまの志の高さ、コンサルタントとしてのレベルの高さに大変感銘を受けました。

独立してまだ1年が経っていませんが、中小企業の経営改善に真剣に向き合い、こんなに楽しい職業は他にないと感じています。是非、これから多くの人と交流をしてお互いにポジティブな影響を与えて高めあいたいと考えております。

最後に、私の略歴でございますが、大学を出てから日本ヒューレット・パッカーという外資系コンピューターメーカーでSEをした後、東京商工会議所の経営指導員を経て独立しました。独立後は主に、経営改善計画策定、中長期経営計画策定、補助金申請支援などを実施しています。特技はIoT分野に強いことで、IoTに関する講演・研修を多数実施しています。クライアントは東京・千葉が中心ですが、九州、北陸など幅広く対応しています。また大学の恩師が琴平に飲食店を開業し、そのご支援もしています。

まだまだ若輩者でございますが、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人香川県中小企業診断士協会
会員 永山 貴久

2019年12月に入会させていただきました、Kappa こと永山貴久と申します。中小企業診断士登録は2017年で、今年3月、定年と共に「創流 Factory」の屋号で独立予定です。略歴は最後にまとめます。一息で言えば、「バリバリの理系で三菱電機の各工場を回りながら、生産性改善ばかりを40年足らずやってきた、世間知らずのヲタク Gappa」となります。昨年5月に「中小工場のための IoT 構築入門：日刊工業新聞発行」という本も出版しました。

入会のきっかけは、3年ほど前、香川協会の中村先生に誘われ、山下会長と共に琴電の呑み放題イベントに参加したことです。それから、かなり頻繁に香川にくるようになり、独立を前に入会を決めました。

協会活動で印象に残ったことと言えば、やはり秋のスキルアップ研修だと思います。獅子と虎と傾奇が織りなす強烈なオーラは、全国から集まった受講生の熱気と相まって、サンポートホールの一隅に異世界への扉を開き、そこに巻き込まれた幼気な子羊達は、煌めくイメージの奔流に思わず我を忘れて聞き入っていたように思います。

香川協会の印象は、一言で言えば自由闊達。活動的な会員の所在地が四国のみならず、九州・中国・近畿・中部・関東にまで分布している協会は香川ぐらいではないでしょうか。独立後は、大阪に本拠を置きつつも香川を始めとする全国の製造業を巡り、仕事が心から楽しいと思える工場を増やしていきたいと考えています。今後とも宜しくお願いします。

(略歴)1960年 宮崎県生まれ。1987年大阪大学工学部応用物理学研究科修士課程修了。同年三菱電機入社。同社の生産技術研究所(現生産技術センター)に所属し、工場との共同によるコストダウンプロジェクト(生産性向上・不良率改善・原価低減開発など)の策定・支援に従事。2016年一般社団法人近畿高エネルギー加工技術研究所に出向。中小企業の技術支援(ジグ製作、設計検討、電磁界解析、コストダウンなど)を実施。2012年に技術士(原子力・放射線部門)、2017年に中小企業診断士の資格を取得。

診断かがわ第74号(新年号)

2020年1月10日発行

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402 号

TEL 087-814-6456 FAX 087-840-0321

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org/>

メールアドレス mail8@shindan-kagawa.org

発行人 会長

山下 益明

編集人 広報企画事業部

梅澤 秀樹

“ ”

立川 敦史

“ ”

溝渕 善彦

“ ”

森 昭博